

中国語学研修報告書

外国语学部 中国語学科2年 雜賀 まり子

はじめに

中国語学科に入るまで中国には一度も行つたことがなく、語学研修があることを知ったとき、ぜひ参加したい！行くしかない！と思いまして。しかしぎなり中国へ行くのは不安があり、2年になる前の春に香港へ3泊の旅行に行つたことがあるだけでした。今回の研修は中国を体験したいけれど、語学も達者ではないし、一人で旅立つ勇気のない不安なつぶりの私にぴったりでした。すぐに申し込んだのは言うまでもありません。さて、例年よりも少ない応募者数だったらしいのですが、大学生活2回目の夏、ほぼ初めての中国で私がみんなと3週間経験しましたが、皆さんに報告したいと思います。

中国到着

飛行機の中でも、空港でも、耳に入つてもすぐ流れていった中国語。まだまだネイティブのスピードに耳が慣れません。空港を出ると中国はもう夜。「おお！ここが中国！」なんて目の前の風景に感動していられるのもつかの間、バスまで移動するために、わずか空港を出て5歩、さつそく左からかつ飛ばしてくるタクシーにひかれそうになります。日本を離れて10時間、これからの中での生活に不安を抱きつつ、意外と居心地のよい寮で、ぐっすり。さて、これからは何を思うのでしょうか。経験内容別に報告していくたいと思います。

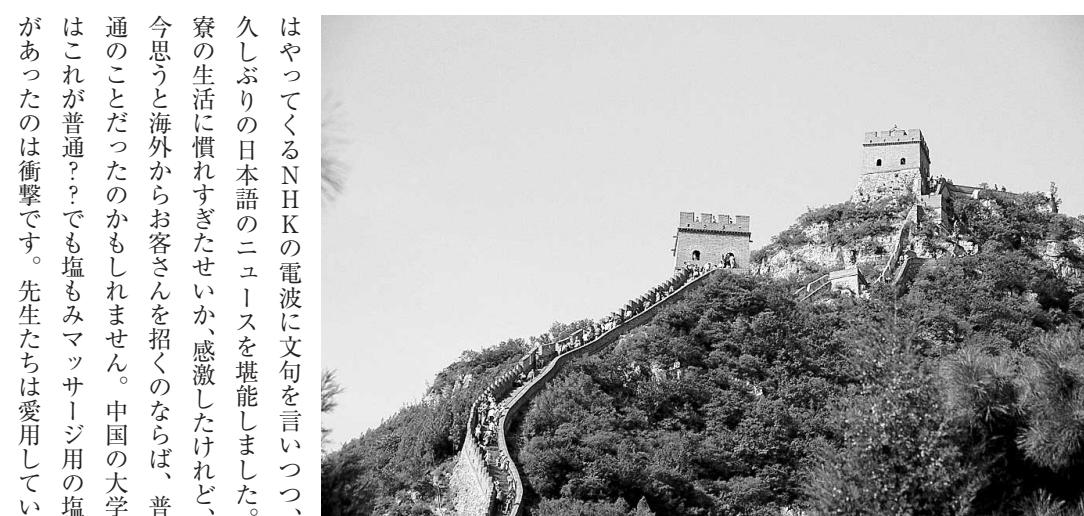
寮生活 in 北京師範大学

北京で生活する上で、一番大変だったのは、やはりコミュニケーション。大学の研修ということで知り合いも多かったのですが、入学式含め授業は中国語演説。北京師範大学での生活がスタートしたばかりの頃は授業中集中力を切らすことができず、そして、先生にあてられても反応する事さえできないのです。はじめは漢字と周りの存在にかなり助けられました。しかし2・3日すると緊張がゆるみ、何かしら返事をすることができるようになります。だんだんと発言も増し、授業に出ることが楽しみになつていきました。上のクラスということで不安もありましたが期待もありました。周りの力に驚き、

今まで努力してきたみんなに追い付くには予習・復習が欠かせませんでした。今ではあのクラスで勉強できてよかったです。みんなが私の先生でもあり、目標でもあります。私が悩んでいる事を経験してきた先輩でもあります。そしてより近くで理解し合えるよきライバルになれたらと感じました。師範大学の先生は片言でゆつくりな私の中国語に耳を傾けてくれました。相手の言っていることがわかった時、自分の意見が通じたとき、一緒に大笑いしたとき・・・そんな一瞬がうれしくて、こんな風に多くの人としゃべりたくて外国語を学び始めたという、忘れかけていたことを思い出す一方、中国語をやつていてよかつたと感じることが多々ありました。先生方と別れのときはとても寂しかったのですが、「また北京で」という先生の言葉を聞いたら、別れも辛くありませんでした。私が中国語をやつてている限り、先生にはいつでも会えるのです。馬先生とは今もメールで連絡を続けていて、2008年、北京オリンピックの時に会えたらしいねといっています。

2週間の北京滞在で身についたのは、言語力と積極性だと思います。北京で私の言語力は確実にアップしました。そして積極性・・・日本

味がわからないと放り出したくなります。わかつた！楽しい！だからもつとしたい！そこが継続の秘訣です。寮に戻つたら速攻でテレビの電源を入れました。安倍さんが何かやつたようでしたらが全くわかりませんでした。ニュースはやつぱりわかりません。ニュースが聞き取れるくらいにならなくては、とよく聞くけれど自分はまだ力不足のようです。授業が終わつたらお昼ご飯をテイクアウトし、誰かの部屋で毎日お昼にやるドラえもんやドラゴンボール等の日本アニメを見ながら午後の予定をたてるのが私たちの日課で、部屋が一緒だったおぐっちゃんと私は毎晩やる恋愛ドラマの人間関係を解決するのに夜は忙しく、楽しみでした。はじめはとても多い中国のチャンネルの中からその観たいドラマやアニメを探し出すのは大変でしたが、CMが多く、もう忘れてしまいましたが、だんだん言えるようになつたりもします。それでもできるわけではありません。そして同じCMが多くの学生に台を譲つてもらい、昼になつたら球が見えません。みんなが暇で、かつ元気で、中国の学生に台を譲つてもらい、昼間の時にしかできなかつたのですが、卓球は中国

中国で最も印象に残っているのは、このような大学での生活で自分が自ら積極的に行つた行為。もちろん授業の中でもなのですが、調べて練習して実践で試した一言一言は、教科書でてくるどんな文よりも断然私の頭の中に残つていて、今では自然に出てきます。例えば、「日本まで切手はいくらですか?」「トイレットペーパーがきれました」など、今思うと、中国で起こつた小さな問題に感謝です。私を積極的に行動させてくれたのです。しかし授業以外しゃべりたくなれば、話さなくてもどうにか生活できます。やはり積極性が大事です。そして3週間を無駄にしないには、多くのことに挑戦するのです。

中国での私の趣味は太極拳、卓球、テレビを観ることでした。師範大学の学生が教えてくれる太極拳は思つていていたよりも難しく、奥が深く、体力を使うものでした。朝も早いのに毎日続けられたのは、きっと分かるからです。これは太極拳、テレビどちらにもいえることだと思います。太極拳もテレビも言つてている言葉はほとんど聞き取れません。でも分かるんです。それは動きがあるからです。特にテレビは字幕がついていることが多い、漢字でも理解できます。分かるから続くというのは勉強にもいえる事だと思います。私的には、特に数学です。理解して解けたときは本当にうれしいのですが、意

北京師範大学はでかい。大学内で迷子になります。もうひとつスープを発見するのに何日かかることか・・・。ここに出るのか！！ドミニントンもやつてみましたが、やはり卓球が一番しつくりいきます。

北京師範大学はでかい。大学内で迷子になります。私たちの素敵なりフレッシュタイムでした。パドミントンもやつてみましたが、やはり卓球が一番しつくりいきます。

大学内にホテルがあるというけれど、ここまで豪華だとは思いもしませんでした。聞くところによると、先生が泊まつているホテルは毎朝ビュッフェで、プールがあるとか。いつたい先生たちはどんな生活なのか不思議で仕方なかつたです。卒業証書授与式が迫るところ、ついにその気に入るホテルへ先生のMP3を借りると、いう口実で乗り込むときがやつてきました！私たちの寮から真反対に位置する先生のホテルまでの長い道のりを、この旅で初めて話したのにすっかり行動を共にするようになつた卓球仲間のなおちゃんと走つて向かいました。テンションが上がつてしまつて、廊下がじゅうたんだということに感激し、バスタブがあることに騒ぎ、なぜか先生たちのホテルに

たのでしょうか？

さて、その口実だったMP3、実はとっても重要なアイテムなのです。なぜかというとそれは卒業証書授与式で歌う曲が入っているからです。先生に感謝！！なんとか無事行うことができました。この曲はお世話になった師範大学の先生に贈る曲だったので、私たちも得るものがありました。一緒に行つた半分近くは同じ学科でも話したこともないような人で、この出し物を考え、作ることで、みんなの距離が縮まつたような気がします。例年よりも少ない人数だったと思います。中国語学科内で輪が広がった面でも、来てよかつたです。

町へ with 加茂さん

町にでたら話しかけ放題！！文法はあまり気にしていません。單語で臨機応変にいきます。1人の時はこれしかありません！中国に着いたばかりのときは普通の値段でも安いと感じ、何もせず買っていましたが、だんだんケチになつていく自分がいました。値切るのは楽しいです。今思うとありえない値段で買つていたような気がします。

い思つて いたことを 解決して くれる プラン で び
つくり で し た。



交流会

く、彼女からもまた多くのことを教わりました。一緒に町へ出かけ、言い方がわからないこと、気になることを訊ねると優しくわかりやすく教えてくれて、挑戦する私を勇気付けてくれました。そして加茂さんの勉強法、留学の話、今の仕事に至るまでなど、失敗話までとてもためになる話ばかりでした。初めて中国でタクシーに乗ったのも加茂さんと一緒にました。タクシーの中で加茂さんと運転手さんが何かもめているようで、大きな声で話す運転手さんに私はそわそわしながらさっぱり分からないやり取りを聞いていました。するとみんなが急に笑い出し、運転手さんが加茂さんに怒っているのではないことを知り安心しました。さて、帰りの助手席は私です。中国へ来て最初に教わった、北京で迷子になつてもみんなのところへ帰れる魔法の呪文を実際に試すときが遂にやつてきました。巻き舌に気をつけながら言つてみると通じたようで、加茂さんからのOKのサインでほつ・・・しかし加茂さんが根岸くんのバースディケーキを取りに行くことを思い出し、私の努力は水の泡。結局違う場所で降りることになりました。運転手さんはさつきの人よりも小さな声だったのですが優しく感じました。安心して助手席からの

现代中国观察

今回の研修はとても欲張りコースだったと満足しています。たくさんの事を経験し学びたい！留学したい！交流したい！北京・上海どつこへ行きました。

日本語でおもしろ楽しく案内するガイドさんで、聞き入つてしましました。私たちに素敵な旅行をプレゼントしてくれる、そんなガイドさんは私もなりたいです。そのためには加茂さんのようにキュートで気がきいて、王さん・蔡さんのようにその国のことについて政治、歴史、地理等多くの面で詳しく、流暢な言葉で、話しあ上でなくてはならないですね。尊敬！！

交流会

た。上海はまた北京とまったく異なる多国籍かつ未来的なムード。他の都市はどんなムードなのか気になる一方、今回パンダに会えなかつたのが少し残念です。

観光中は中国語で話す機会はほとんどないのですが、日本語の話せる他ツアーライのガイドさん

人と間違えて中国語や英語を使って挨拶してくれたり、写真をとつてほしいと尋ねる外国の観光客の方がいたりし、日本の話題で盛り上がりながらして、何気ない国際交流をたまに楽しめました。初めは親切、興味本意、商売で話しかけてくる中国の人々に戸惑いましたが、逆に私が

北京師範大学でも交流会があり、上海でもありました。一番じっくり中国語で中国の人と話せたのはこのときです。この交流会で気づいたことがいくつかあります。まず、話題になるのは同じようなことなのです。日本人同士の初対面の時とは違い、「中国で行ったことのある観光地は?」「中国で好きなタレントは?」「好きな中華料理は?」など、中国のことに加え、「将来何になりたいの?」「部活は何をしてるの?」「日本ではどう?」など自分のこと、日本のこともよく聞かれます。中国の観光地や食べ物は今回の研修で、多くの場所へ行き、食べ

てきたので、多少の嘘もありませんでしたが答えられました。しかし中国語でなんと言つたらいのわからない単語がたくさんあるのです。そして日本についてきかれて答えられないことが多く、とても恥ずかしかったです。逆に訊ねてみると、「木村拓哉」「新潟」など、音ではさっぱりだつたことが文字にして、やつと分かりました。言つてることが聞き取れた、でも答えられない。聞き取れない、でも文字にしたら分かっただ。そんなことがたくさんありました。上海師範大学の学生は、日本語を専攻しているということもあり、特に日本に詳しく、私たちの中国語に比べると日本語のレベルも上回つていて、自分たちのダメさに危機を感じました。までは自分のこと、日本のことと中国語で表現できるように、多くの面で自分自身の国を学び、知る必要があると、思い知りました。中国語、日本語、英語が飛びかう不思議な空間でしたが、同じ世代の遠い国で日本語を学ぶ学生に刺激され、多くのものを得る事ができました。

これから

帰るころには、1人でも中国に来れるくらい、強くなつたと思いました。中国という国は何度も行きたくなる国、そんな風に感じさせる魅力

的な未知の世界。私たちが滞在したのはほんの一部、わずかな期間です。まだまだ知らない中国がたくさんあります。私のイメージの中国だけでも、訪れたい町はたくさんあります。この研修で得たものは多く、何よりも今後自分がやるべきことが、成田出発前よりも明確になりました。それだけでも行つた意味はありました。今回は先生や友達に助けられ安心して自由に中国を知り、満喫することができました。中国語学科に入学してよかつたと感じ、さらに中国へ興味を持ち、好きになる旅でした。中国語学科にいるからには、ぜひ行きたい中国！私のように不安な子にこの研修はとてもお勧めです。日本では得られない多くのことに身に付けました。しかしその一方でまだまだ日本ができる事があるのだと、やる気がしました。やりたいことがあってもお金がないとできない、今は自分ができることを精一杯日本でし、さらにコツコツお金をため、ぜひ次回は独立して中国へ自分の努力を試しに行きたいです！

